

令和元年度

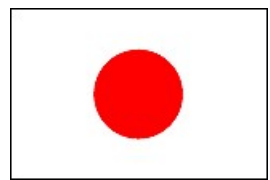


第10回大垣市小・中学生

中国・邯鄲市研修派遣団



報告書



フレンドリーシティ交流事業

第10回大垣市小・中学生中国・邯鄲市研修派遣事業

団員名簿(学年、五十音順)

派遣期間: 令和元年7月28日(日)～8月2日(金)

No.	役名	氏名	性別	所属
1	団長	かたやま せいご 片山 誠吾	男	牧田小学校 校長
2	総務兼通訳	のむら ゆうすけ 野村 勇介	男	綾里小学校 教諭
3	総務兼通訳	まつばら ぎょりん 松原 玉林	女	(公財)大垣国際交流協会 職員
4	団員	はせがわ まや 長谷川 舞英	女	宇留生小学校5年
5	団員	おくだ りょうた 奥田 涼太	男	西小学校6年
6	団員	しみず もも 清水 もも	女	西小学校6年
7	団員	なかむら しんり 中村 心俐	男	南小学校6年
8	団員	まつむら ともか 松村 智嘉	女	西小学校6年
9	団員	さいとう むえん 斉藤 夢岩	男	江並中学校1年

第10回 大垣市小・中学生中国・邯鄲市研修派遣団 日程表

派遣期間： 令和元年7月28日(日)～8月2日(金)の6日間
派遣人数： 9人（引率者3人(団長1人、総務2人)、小学5・6年生と中学生6人）

令和元年6月13日現在

	月 日	現地時間	交通機関	日 程		朝	昼	夜
1	7月28日 (日)	5:30 7:00 9:00 11:50 13:00 14:00 17:00 18:30	バス 中国東方航空(MU744) 旅行会社手配バス	大垣発、バスにて中部国際空港へ 中部国際空港着 搭乗手続き等(旅行会社担当者のサポート) 中部国際空港発(北京空港へ) 北京空港着 昼食 北京見学(故宮博物館、天安門城楼) 夕食 ホテル着 【ホテル泊(北京)】	移動 北京	—	北京市	北京市
2	7月29日 (月)	8:00 9:00 11:30 13:41 15:54 16:30	↓ 高速鉄道(G4567) 邯鄲市 外事弁手配バス	ホテル発 北京市内見学(頤和園、動物園) 昼食 北京西駅より邯鄲東駅へ 邯鄲東駅到着 ホテル着 《邯鄲市プログラム》 邯鄲市着後、邯鄲市表敬訪問、歓迎会 【ホテル泊(邯鄲①)】	 邯鄲	ホテル	北京市	邯鄲市
3	7月30日 (火)	午前 午後		《邯鄲市プログラム》 叢台公園見学 学校見学、交流会 ホームビジット(邯鄲市民の家庭半日訪問)(団員) 座談会(引率者) 【ホテル泊(邯鄲②)】	 邯鄲	ホテル	邯鄲市	邯鄲市
4	7月31日 (水)	午前 午後		《邯鄲市プログラム》 広府古城見学 太極拳体験 書道&プリントTシャツ作成体験 餃子作り&夕食 【ホテル泊(邯鄲③)】	 邯鄲	ホテル	邯鄲市	邯鄲市
5	8月1日 (木)	8:15 9:30 12:15 13:00 14:00 17:00 18:30	↓ 高速鉄道(G6734) 旅行会社手配バス ↓	ホテル発 邯鄲東駅発、列車にて北京へ移動 北京西駅着 昼食 北京市内見学(万里の長城) 夕食 ホテル着 【ホテル泊(北京)】	 北京	ホテル	北京市	北京市
6	8月2日 (金)	8:30 9:30 11:30 15:50 19:50 21:00 22:30	↓ 中国東方航空(MU743) バス	ホテル発 北京市内見学 昼食 北京空港発(中部国際西空港へ) 中部国際空港着 入国手続き後、バスにて大垣へ向け出発 大垣着後、解散	 移動	ホテル	北京市	—

友好の架け橋～「友」「信」「協」～

団長 大垣市立牧田小学校 片山 誠吾

第10回大垣市小・中学生中国・邯鄲市研修派遣団が、自分達のスローガンを決めた日は、研修を重ねて気心が知れ合った第4回事前研修の7月13日でした。「友」「信」「協」漢字3文字です。「友」には、中国の人と友好を深める、「信」には、派遣団として信頼される行動をする、「協」には、みんなで協力してよりよい研修派遣を実現するという6人の願いを込めました。

6人の児童生徒は、研修派遣期間中、このスローガンをいつも心がけて活動に取り組んでいました。私が特に印象深く感じたのは、河北工程大学附属小学校との交流と、邯鄲での最後の活動となる餃子パーティーで邯鄲の皆さんに話した、一人一人の感想でした。

河北工程大学附属小学校との交流で、中国の子たちは、日本の6人によるリコーダー演奏を熱心に聞き、中国語の歌を披露した時には、一緒に歌ってくれました。それらの発表も好評でしたが、中でも人気があったのは、日本の遊びの紹介でした。けん玉、お手玉、折り紙を実演し、リーダーの斉藤さんが中国語で紹介すると、中国の子たちの目がいっそう輝いてきました。

実演した後、斉藤さんが「皆さんも一緒に遊びましょう。」と誘うと、中国の子たちがうれしそうにステージに上がってきたのです。「一緒に遊んでくれるかな。」と少し心配していた日本のメンバーも嬉しそうでした。私も嬉しく思いながらも、中国語と日本語、お互いの言葉を十分知っている訳ではない交流が成立するかどうかは不安でした。

しかし、日中の子どもたちは、身振り手振りでお互いの思いを伝え合い、楽しそうに遊んでいました。一緒にけん玉をしながら、どうやればうまくできるのかを教え合ったり、お手玉をしながら、いろいろな技を試したり、折り紙をよく見たり、折ってもらったりしながら、笑顔が広がっていったのです。言葉が十分通じなくても、心が通じていました。日本の6人と、河北工程大学附属小学校の子どもたちは、「友達」でした。子どもたちの思いで進んだ本物の交流が、みんなを友達にしました。まさに、日本の6人のメンバーが、「友」を具現した瞬間でした。

邯鄲での最後の夜、円卓で餃子パーティーをしている時、ずっと私達派遣団のお世話をしてくださった王さんが、日本の6人の小中学生に、こう尋ねました。

「皆さん、邯鄲での生活はどうでしたか。特に心に残ったことを、一人一人話してください。」

急に尋ねられて、6人は驚きながらも、全員が挙手して堂々と話しました。学校訪問で日本の昔の遊びを河北工程大学附属小学校の子に紹介し、一緒に遊んで仲良くなれたこと、ホームビジットで訪問先の家族と交流して、温かさを感じたこと、邯鄲の博物館や故事成語の勉強や、太極拳の体験を通して、歴史と文化の素晴らしさを感じたこと・・・自分の感動を、日本のみんなに伝えたい。6人が王さんの目を見て話す表情に、感謝の気持ちが込もっていました。

餃子パーティーが終わった後、王さんが私に、

「6人は、それぞれ感じたことを堂々と話しました。私が急に質問したので、子どもたちの生の声が聞けたのですが、一人一人がそれぞれの感性で、いろいろな内容について話をしたので感心しました。自分としては、邯鄲でのいろいろなプログラムに満足してもらえて嬉しい限りです。」と伝えてくださいました。派遣研修の準備から実施まですっかりお世話になった王さんにそう言われて、嬉しく感じるとともに、お世話をしてくださった皆さんと喜びを共有できた思いでした。

邯鄲の研修を終え、再度北京入りした日、3日ぶりに出会った添乗員の範さんが、「初めて会った3日前よりも、6人が仲良く、しっかりしていますね。」と教えてくださいました。食事をする時、万里の長城を歩く時、バス移動をする時の振り舞いに成長を感じたそうです。私は、6人が中国での生活を通して「協」を具現したのだと思いました。

私は、6人の保護者の皆さんに、「6人とも『成長したね。』と友達や先生から言われるようになります。」と約束して研修派遣に臨みました。6人とも、第10回大垣市小・中学生中国・邯鄲市研修派遣団の一人として、研修を通して成長した自分を自覚し、学んだことを生かして活躍していることと思っています。そして将来、大垣市と邯鄲市、日本と中国の友好の架け橋となって活躍していくことを期待しています。

中国での研修で感じた子どもたちの成長

総務兼通訳 大垣市立綾里小学校 教諭 野村 勇介

中国での研修を通して、子どもたちがどのように成長していくか。何か人生の道標となるものを見付けられたか。家族や友だち、先生などから、「変わったね。成長したね。」と言ってもらえるか。

6月に始まった事前研修から帰国の途につく8月2日まで、これらのことを事あるごとに考えながら研修してきました。私が、子どもたちが成長したなと感じたことは、大きく3つあります。

まず、新しいことに対する積極性です。新しい仲間と外国で共に過ごすことに、不安を感じていた子もいたと思います。しかし、子どもたちは徐々に打ち解け、中国へ出発する頃にはとても仲よしになることができました。中国では現地の子どもたちとの交流やホームビジットがありました。折り紙やけん玉、お手玉など、優しく教えながら楽しそうに遊ぶ姿には感心しました。火鍋を囲んだ昼食では、子どもたち同士でとても仲がよさそうでした。また、太極拳や書道、餃子づくりと、様々な体験がありました。ここでも、進んで取り組む姿勢がすばらしかったです。心づくしのおもてなしをしていただいた中国の方々に対して、子どもたちの積極的な姿勢は大変立派でした。初めて出会った人と交流したり初めてのことに挑戦したりするときには、こうした積極性がまず何より必要で、子どもたちの今後の生活に生きてくると感じました。

次に、見通しをもつことです。飛行機やバス内での過ごし方、ホテル内での過ごし方など、子どもたちの姿は徐々によくなっていきました。次は何があって、今は何をすべきなのかを自分で考えて行動できるようになっていきました。バス内では、楽しくおしゃべりをしたり遊んだりしたい気持ちを抑え、次の予定を確認したりパフォーマンスの練習をしたりすることが増えていきました。気持ちを切り替えて大きな声で騒ぐ姿も少なくなっていました。ホテル内では、就寝時刻や出発時刻を自分たちで相談して決め、時刻に間に合って行動できるように何をすべきかを考え、行動できるようになっていきました。修学旅行を経験していない子どもたちにとって、自分で考え見通しをもって生活する力を付けたことは、大きな財産になると感じました。

最後に、周りへの気遣いです。施設を見学中に仲間がついてきているか気にしていたり、食事中に仲間に料理を取ってあげたりしていました。さらに、体調が優れなかったり歩き疲れたりした仲間の荷物を持ってあげる姿も見られました。ある子が「初めのうちは自分のことに精一杯だったけど、見通しもつことで気持ちに余裕ができたので、まわりをよく見て助けたり声をかけたりすることができるようになった。」といった内容を、研修日記に書いていました。この子にとっては、ここで大きな成長が見られたのだと感じ、日記を読みながらとてもうれしくなりました。また、誰もが精一杯の準備をしたりおもてなしをしたりしてくださった、中国や国際交流協会の方々に、感謝の言葉を話したり研修日記に書いたりしていました。人の温かさや気持ちを感じることができるのは、周りのことを見ようとしているからで、とても素敵なことだと感じました。

この研修は、派遣団員の子どもたちにとって、間違いなく今後の人生に大きな影響を与える経験になったと思います。中国では、外事弁公室（国際交流関係）の方々を始め、大変多くの方にお世話になりました。想像をはるかに超える熱烈的な歓迎に、心より感謝します。また、このような機会を与えてくださり、精一杯の準備や引率をしてくださった大垣国際交流協会の皆様、誠にありがとうございました。最後に、子どもたちを快く送り出していただいた保護者の皆様、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。



2 回目の中国での研修を終えて

総務兼通訳（公財）大垣国際交流協会 松原 玉林

2 年前に派遣団 5、6 年生 9 名と引率者を合わせた 12 名と今回 5、6 年生 5 名、中学生 1 名と引率者を合わせた 9 名、2 回の派遣事業を通して、派遣された両国の子供達との交流により、お互いの国に対する理解が深まり、将来に広がる中日両国の懸け橋が出来たのではないかと改めて感じました。特に、今回中国出身の団員に大いに期待をしています。

邯鄲市との交流プログラムでは、どこに出向いても心からの笑顔で迎えてくださり、不安を抱えて日本を後にした子供達のほっとした顔つき、さらに、嬉しそうで生き生きとした表情を見る事ができ、これらは一重に邯鄲市のスタッフの皆様の温かなお心遣いの賜物だと感謝の気持ちで一杯です。

様々な交流の中でも、かけがえのない思い出となったのは主に二つです。一つは、訪問先の河北工程大学附属学校に通っている同世代の子供達とのふれあいです。まず、日本の子供達の想像を超えるハイレベルなパフォーマンスを見せて頂き、次に日本の子供たちが、日本文化の紹介を兼ねて準備をしてきたリコーダーなどを披露しました。その中に、日本の昔の遊びは一番中国の子供たちに気に入られました。中国の子供たちも緊張していたようで、団員達は「一緒に遊ぼう」と、声をかけると皆さんはとても嬉しそうに、粹な子供の顔に戻って、楽しそうに折り紙、けん玉、お手玉を体験していました。その後、「皆で一緒に火鍋を食べに行きます。」と、校長先生から話を聞いた瞬間、中国の子供たちも団員たちも「よっしゃー！」と大声で言っていました。言葉が分からなくてもこうやって心と心を通じて、楽しい交流ができていると感じた瞬間でした。

もう一つは前回なかったホームビジットです。団員たちは 1 人ずつ各家庭に入って、中国市民の生活に身をもって体験しました。私たち 3 人の引率者もそのホストファミリーのお宅を見に行きました。団員たちはその家族の一員のように、とてもリラックスしていました。各家庭のプログラムによって、家で餃子を作ったり、市内の大きなショッピングモールに連れてもらったりして、半日のホームビジットはあっという間に終わりました。別れに際しては、「もっと遊びたかった」と口々に別れを惜しんでいました。とても充実したひと時に見えました。

今回の交流事業を皮切りに、両市の友好が末永く続くことを願い、8 月末に、邯鄲市からの訪問団が来日の際には、精一杯の真心でおもてなしをさせて頂きたいと思います。

最後に、大変お世話になりました邯鄲市の関係者各位、この素晴らしい機会を与えて下さいました大垣市並びに職場の皆様には心から感謝申し上げます。



1 日目 故宮博物院・天安門訪問

大垣市立南小学校 6 年 中村 心俐

僕たちは1日目に天安門と故宮博物院に行きました。

天安門には毛沢東の絵があり、その横に「中華人民共和国万歳」と「世界人民大団結万歳」と書いてありました。僕は最初に天安門を見たときにどういう物で作られたのか、どういう目的で作られたのかを知りたくなりました。

帰国後、調べてみたところ、この天安門という名称は「天上の平和の門」という意味にも取れますが、満州語の名称は「天命を受けて安定した(平和な)国を治める」という意味であり、それを省略した形が「天安門」と考えられるそうです。

構造は、5つの通路をうがった城壁の上に木造の楼閣が建てられていて、中国の代表的な城門建築であるそうです。楼閣の中は現在、中国政府要人が諸行事の際に天安門に立つときの前後に休息をとるための椅子やソファが置かれているとのことでした。

天安門には海外から来ている観光客も多く、また中国の人も沢山訪れていたもので、中国を象徴する建物の一つなのだと思います。

日本ではあまり見たことのない大きさの建物や広場で、中国のスケールの大きさを肌で感じる事ができ、とても感動しました。



また、天安門の奥には故宮博物院があり、そこには水がめがありました。その理由は故宮が木造建築であり、火が来たときに燃えやすくなっているため水がめに水をためておき、火を消すときに使用するように作られたものだそうです。

そして、故宮はもともと王の誕生日などで使われてきたそうです。故宮はとても広く、誕生日などにはどれだけの人がここに集まったのか想像すると、当時の王様が物凄く権力を持っていたのだろうなと感じました。

中国の壮大さを自分で見たり、聞いたり、感じたりすることができて嬉しかったです。次に行くところがとてもわくわくしてきた1日目でした。

3日目 邯鄲でのホームビジット

大垣市立宇留生小学校5年 長谷川 舞英

私の中で研修でとても心に残った邯鄲市のホームビジットでは、中国語が分からなくても、少し英語を使ったり、ジェスチャーを使ったりして、ホストファミリーのみんなと交流することができました。

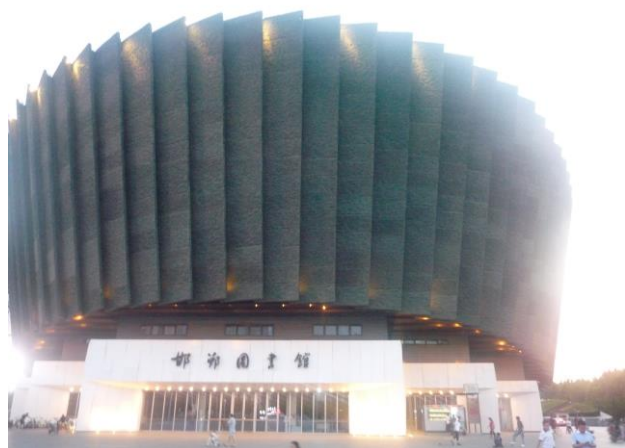
私は劉さんのお家に訪問させてもらいました。最初は仲良くなれるか心配でした。けれどもホストファミリーのみんながとても優しく、すぐに仲良くなることができました。劉さんのお家には子どもが2人いました。女の子（お姉ちゃん）と男の子（弟）です。私は4人姉妹だと言ったら、とても驚いていました。みんなでいっしょに福笑いをしたり、お菓子を食べたり、プレゼントをわたしたり、とても楽しく交流ができました。



邯鄲のショッピングモールにも連れて行ってもらいました。日本よりも階が多くて、とても広かったです。広い分、人や店がとても多かったのが驚きました。夕食に、中国の海鮮料理を食べさせてもらいました。その店では、1品1品の量が多かったです。少し辛い物もあったけれど、とてもおいしかったです。劉さんに、「どうですか。おいしいですか。」と聞かれ、「はい。」と言うと、喜んでいるように見えました。それから、いろいろなお店をまわったりしました。お店のふんいきは、日本とほぼ同じでした。イルミネーションがついた木などがとてもきれいでした。帰りの車の中では、3人で一緒に街の景色を楽しんでいました。

ホテルについて別れるとき、とても寂しかったけど、自己紹介用の写真をあげてお別れしました。

劉さんは、私にとって、一生忘れられない初めての中国の友達です。



3日目 ～ホームビジット～

大垣市立江並中学校 1年 齊藤 夢岩

僕がホームビジットへ行ったのは、王さんのお宅です。

王さんは4人家族で、お父さん、お母さん、王さんと弟です。王さんは5年生で、夏休みが終わったら6年生になります。中国では、9月に進級するからです。王さんの弟はまだ幼くて、僕を見て少しびっくりしていたけれど、お母さんが、「大きなお兄さんでしょう?」と、楽しく紹介してくださったので、笑顔になり、僕にハンドスピナーを渡してくれました。お父さんが、「日本の中学校は、どんな感じですか。」と尋ねたので、僕は、「中国の中学校より宿題が少なく、先生はとても優しいですよ。」と答えると、少し驚いた様子でした。お母さんが、「齊藤さんのご両親は、日本でどんな仕事をしているんですか。」と尋ねたので、僕は、「お父さんもお母さんも、日本の会社に勤めています。」と答えました。



その後、邯鄲で一番大きなデパートに5人で行きました。芸術センター公園の下にあるデパートで、とても大きく、多くの店がありました。入るだけでワクワクしてきました。中に広場があり、本物の馬がいて、馬に乗って楽しんでいる人もいました。日本のデパートでは考えられないことで、中国のデパートのスケールの大きさに驚きました。

お父さんが、ガラスでできた器を買って、僕にプレゼントしてくださいました。

食事の時、チャーハンを注文すると、料理人がテーブルに運んだ後、チャーハンに火をつけて炎が上がったので、びっくりしました。弟が元気で、大きな声を出していたので、お母さんが、遊びに連れて行きました。

食事の後、広場で王さんと遊んで、たくさん話をしました。王さんは、日本語は分からないので、中国語で会話をしているうちに、仲良くなりました。今では、僕の親友です。

王さんの家族はとても優しく、親切でした。王さんは、8月に僕の家にもホームステイをします。僕は、とても楽しみです。僕の家族も、僕が親切にされたように、王さんを温かく迎えて、日本でのよい思い出を作ろうと張り切っています。



4日目 ～習字体験・餃子パーティー～

大垣市立西小学校 6年 清水 もも

4日目に、習字体験と餃子パーティーをしました。

習字体験では、中国の書道を体験して、劉文榮先生に細かい所を教えてもらいながら、毛筆で書きました。

劉先生の字は、とても上手で止め・はらいなど、全てがきれいでした。

団員みんなが書いた字は、一人一人個性が出ていて、元気な字の人やすごく上手な字の人もいました。最初に好きな字を書いて、最後に一人一文字ずつ書いて「一言九鼎」という故事成語を書きました。一言九鼎は、「自分の言葉に責任を持ち、人と約束したことは必ず守る。」という意味です。

また郭先生は、中国では有名な書道家であり時間が無いのに、私たちのためにわざわざ時間を作って、習字をしてくれたのでとても嬉しかったです。

他にも、邯鄲市に関する故事成語をたくさん見つけてその分の景品がもらえるゲームをしました。今までやったことのないような、貴重な体験が出来て嬉しかったです。



餃子パーティーでは、みんなで中国の餃子を作りました。

中国の餃子は、日本と違って水餃子です。日本では主にスーパーなどで買った皮を使いますが、中国では皮も手作りで、厚めの皮です。その皮に餡とえびを詰めます。それを茹でて完成です。中国の食卓は円卓で、その上にたくさんの料理が並んでいました。食べきれないほどの量でした。どれも美味しかったです。

日本とは違う食文化をたくさん知りました。そのパーティーの時にみんなと交流が出来たし、邯鄲での思い出や心に残ったことを王さんに伝えました。みんなの話を聞いて、王さんが喜んでくれたので嬉しかったです。

餃子パーティーで、私たちのためにいろいろなことを準備して招いてくれたので、中国のみんなが日本に来た時喜ばれるように招きたいです。



4日目　～太極拳体験～

大垣市立西小学校　6年　奥田　涼太

「うわあ。難しいな。」僕が太極拳をやってみて、最初に思ったことです。

僕が体験した場所は、建物の中の中庭のような所でした。靴をはいたままやるので、「土足でも大丈夫なんだな。」と思いました。

僕は、小学校3、4年生の時に、空手を習っていました。だから、「太極拳はきっと空手と似ている。だから、すぐにできるだろう。」と考えていました。

でも、やってみると、空手にはあまりない左右の動きが多く、腕を伸ばしたり向きを変えたりする動きもたくさんあり、動きも大きかったです。また、スピードがゆっくりで、空手よりもかえって難しいと感じました。

空手の先生は、向きや突きやけりの速さなどを教えてくださいますが、太極拳の先生は、形を教えてくださいました。太極拳の先生に聞くと、「太極拳は、攻撃ではなく、防御のためのものです。」と教えてくださいました。僕は、「だから、空手とは動きやスピードが違うんだな。」とわかりました。そして、「防御だから、身の守り方をわかって、動きができているんだな。」と納得しました。

中国では、太極拳という防御だけの拳を生み出したことがわかりました。また、先生に、「今も中国では、多くの人が公園などの広場で健康のために太極拳をやっているよ。」と教えていただき、中国の人にとって太極拳は、身近なものなのだとわかりました。

その晩、王さんに3日間の感想を聞かれたので、僕は太極拳と空手を比べて話をしました。「僕は、日本で空手をしていました。空手は、攻撃と防ぎょがあるけれど、太極拳は防ぎょの拳だと聞いてびっくりしました。空手に慣れている僕にとっては動きが難しかったけれど、太極拳と空手との違いがわかったので、日本に帰って、みんなに伝えたいです。」と発表しました。

自分では、感じたことをそのまま伝えたのですが、後で先生に聞くと、その発表を聞いて、王さんが、「自分の体験と比べて中国の太極拳の特徴をわかってもらえて、とてもうれしかった。今回太極拳を体験してもらってよかった。」と、とても喜ばれたそうです。それを聞いて、僕もうれしかったです。言葉や交通ルール、食事の仕方など、いろいろな違いがありましたが、僕はずっと、空手と太極拳のように、「日本も中国も両方ともいいな。」と感じていました。

僕は、日本の友達に太極拳のことを伝えて、少しでもたくさんの人に、中国に興味をもってもらいたいと思っています。



6日目 ～北京見学～

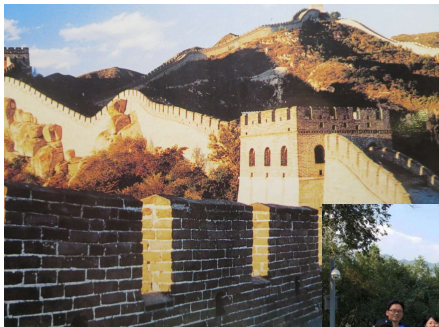
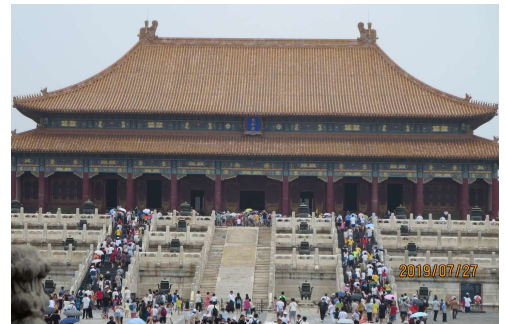
大垣市立西小学校6年 松村 智嘉

私は、第10回大垣市小・中学生中国・邯鄲市研修派遣団として、中国の人たちと交流を深めるために、中国の北京市と邯鄲市で研修してきました。

北京で私が印象に残ったことは、3つあります。

1つ目は故宮です。故宮は、中国を代表する世界遺産で、かつて「紫禁城（しきんじょう）」と呼ばれた世界最大の宮殿です。昔の皇帝が住んでいる場所と、仕事をする場所と、国の大事な会議なども行われた場所です。

故宮を実際に見て、その広さと、豪華さで、これまで見たこともないような歴史を感じさせられる建物に圧倒されました。故宮の中で、大きな銅の水瓶をいくつか見かけました。これは何をやる時に使うのかガイドさんに聞いてみると、水瓶の中に水を入れて、火事になったときに、消火するために使うと教えてくれました。さらに、故宮は、木造建築だということも教えてもらいました。私は、昔の人の知恵や、工夫に感動しました。



2つ目は、万里の長城です。万里の長城は、攻めて来た敵を防ぐための塙みたいな建物です。万里の長城は、紀元前214年前から造られた、とても古い建物です。そして万里の長城は、宇宙から肉眼で見える唯一の建物です。このくらい、丈夫で大きい建物がすべて人の手で造られたそうです。

私は、今の時代の機械や技術を使っても、これだけ壮大な建物は造れないと思いました。そして、万里の長城は山から山へと建物がつながっていて、見渡す限り、永遠に続くような壮大さに感動しました。

3つ目は北京動物園です。動物園の中には、パンダ館があって、その中に九頭ぐらいのパンダを一度に見ることができました。こんなにかわいくて、いやされるパンダをたくさん見ることができて、研修のつかれがふきとびました。

帰りには、パンダのぬいぐるみを買いました。一生の思い出になって良かったです。



それ以外にも北京には素晴らしいものがたくさんあります。道が広くて、車がたくさん走っているし、人もたくさんいます。日常生活の中で、経験できないことばかりでした。「百聞は一見にしかず」というように、その現地に行って実物を自分の目で確認しないと、そのすごさは分からないと感じました。

今回の研修を通して、たくさんのことを学べて、一生の思い出に残る研修になりました。この学んだことを将来に生かしていきます。

3つの成長

大垣市立宇留生小学校5年 長谷川 舞英

私は、今回の研修を通して、毎日少しずつ成長することができたと感じました。成長できたと思うことは、主に3つあります。

1つ目は、大事な時にすばやく気持ちの切りかえができるようになったことです。

2日目の歓迎レセプションでのことです。

レセプションまでにあまり時間がなかったのですが、ホテルの部屋で、女子3人が、「今から着替えれば間に合うよ。」「時間に余裕をもって行けるようにしましょう。」などと呼びかけ合ったので、ゆとりをもって行動できました。そのことが、私にとっても、派遣団のみんなにとっても、自信になったと思います。

バスの中での切りかえも、初日に比べて5日目の方がとても早くなったと思います。5日目のバスの中では、「次は万里の長城だよ。お土産を買う準備もしておこう。」「着いた時にすぐバスから降りられるように、荷物を準備しておこう。」という会話が、自然に出ていました。



2つ目は、研修の日がたつにつれて、中国語がたくさん使えるようになったことです。

3日目の邯鄲市のホームビジットでのことです。私は、劉さんの家でホームビジットをさせていただきました。

劉さんは、「邯鄲市で一番大きなショッピングモールに行きましょう。」と誘ってくださいました。4人で出かけると、たくさんの店や遊園地があり、その広さにおどろきました。途中で、海鮮料理の店で夕食をとりました。「この料理は、日本と違って少しからいですが、とてもおいしいです。」劉さんの家族といろいろなことを話しているうちに私は自然に中国語を使っていました。話をするのが楽しくて、中国語を少し使えるようになりました。



3つ目は、たくさんの人の前で堂々と発表できたことです。河北工程大学附属小中学校への訪問では、初めて会った中国の先生や小学校の子たちの前で、大垣市紹介のプレゼンや、歌やりコーダー、折り紙などのパフォーマンスを成功させることができました。私は、緊張感をこらえて、パフォーマンスに集中することができた。

中でも、折り紙は、「一緒にやりませんか。」と誘うと、中国の子がたくさんステージに上がってくれて、身振り手振りで教えることができました。教えた後、たくさんの子が「謝謝。」と言ってくれて、中国の子たちも折り紙ができたことをとても喜んでくれたとわかりました。私は、「事前研修で、折り紙を工夫したり、中国語を一生けん命練習したりしてよかったな。」と思いました。達成感がとても大きかったです。



今回の研修での3つの成長をこれからの生活や学習などにつなげていけるようにしたいです。

心が通じた訪問

大垣市立西小学校 6年 奥田 涼太

「よかった。中国のみんなが笑顔になった。緊張がほぐれた。」

僕は、ステージの上から客席の中国の友達を見てそう思いました、

3日目の学校訪問でのことです。僕達は、河北工程大学附属小学校の皆さんと交流をしました。日本の昔の遊びの紹介で、僕はお手玉を担当しました。山形投げと片手投げ、そして、フィニッシュは、「背中落とし」。背中落としは、僕が自分で考えぬいた技で、お手玉を高く投げて、前かがみになり、背中の上にお手玉を乗せる、なかなか難しい技です。

片手投げをしている時から、次の背中落としがうまくいくかどうか、ドキドキしていました。ついに背中落としをする時が来ました。

「失敗しませんように。」僕は心の中で願いながら、お手玉を高く上げました。2回バウンドしてお手玉が床に落ちましたが、落ち着いて3回目・・・お手玉が背中に乗りました。「やった！成功した！」僕は、両手でお手玉をもち、両手でばんざいをしました。その時に、中国のみんなが笑顔になったのです。

中村さんがけん玉、女子3人は、折り紙の紹介、斉藤さんは、僕達の発表を中国語で説明する役です。僕達のステージが終わった後、

「一緒に遊びましょう。教えますよ。」

と言うと、河北工程大学附属小学校の皆さんは、うれしそうにステージに上がって来てくれました。

僕は、中国語が十分話せるわけではありません。でも、身振り手振りで一生けん命教えると、わかってくれました。そして、「謝謝（ありがとう）。」と笑顔で言ってくれて、うれしかったし、心が通じた気がしました。

4日目には、餃子パーティーがありました。僕は、学校訪問の時と同じように、自分から動きました。でも、餃子作りは初めてです。3日目のお手玉とは逆に、教えてもらう立場でした。教えてくださったのは、王さんです。僕が身振り手振りで聞くと、王さんはわかってくれて、実際に餃子の皮を見せてくれて、具の量や乗せ方、皮の閉じ方をゆっくりとわかりやすく教えてくださいました。今度は僕が、笑顔で「謝謝（ありがとう）。」と王さんに言いました。王さんは笑顔で、僕は、王さんと心が通じた気がしました。

今回の訪問では、いつも大垣市の小中学校6人の仲間と一緒に行動しました。空港で、ホテルで、訪問先で、いつも僕を助けてくれたし、僕も、いつも仲間に気を配って助けるようにしていました。派遣研修を通して、深く心が通じたこの仲間のことを、僕は忘れません。



この研修で得たこと

大垣市立西小学校 6年 清水 もも

私は、中国の邯鄲市・北京市での6日間、とても充実した時間を過ごせました。でも慣れない場所だったので、日本に帰ってくるととても安心しました。

私が中国に行って得たものは、3つあります。

1つ目は、仲間との絆です。

最初は団員の仲間たちと、うまくやっていけるか不安でした。でも事前研修や、6日間で徐々に仲良くなったし、絆が深まったので嬉しかったです。特に事前研修でやったパフォーマンス練習を一人一人家でも練習してきて、本番では今まで練習してきた成果を思いっきり出せました。仲間との絆があったからこそ、楽しい研修になりました。

2つ目は、現地の人との交流です。

今回の中国研修では、ホームビジットがあり、半日の間中国の家庭で過ごしました。初めは、ちゃんと言いたいことを言えるのか不安だったけど、ジェスチャーやひとこと中国語がまとめてあるものを見て、少しだけ交流ができました。

私は、日本のお菓子をお土産で渡しました。すると、そのお菓子をたくさん食べてくれて、気に入ってくれました。とても嬉しかったです。他にも学校の子やガイドさんと交流しました。

3つ目は、中国の知識です。

私は、今回中国では初めていろいろな事を知りました。その中で驚いた事が3つありました。

まず、交通の事です。中国では、道路が広くて車は右側通行です。道路に車やバイクがたくさん通っていて、横断歩道を渡るときはなかなかタイミングがつかめませんでした。バイクに乗っている人は、ヘルメットを着用していない人が多かったです。

次に、料理の事です。中国の料理は、日本と違って油を多く使う料理が多く、濃い味付けでした。日本の中華料理店にもあまり出ない料理もたくさん出てきました。日本では、出てきた料理を全て食べることが礼儀正しいことですが、中国ではおもてなしが足りないことになります。

中国と日本では、食文化の違いがいろいろあることを学びました。



そして、建物の事です。中国の建物は、大きくて歴史がある建物がたくさんありました。特に万里の長城は、約2000年前の建物でその姿が今もこのまま残っていて、すごいと思いました。私達は、万里の長城の男坂を登りました。2000年前の建物だけあって、一つ一つの段の高さが違ってすごく疲れました。

中国の人と交流するときの優しさや、写真では感じられないスケールの大きさなど、現地に行かないと味わうことのできない事がたくさんありました。

この経験は、きっと自分の将来に役立つと思います。

中国の友達との友好関係

大垣市立南小学校 6 年 中村 心俐

僕たちは3日目に河北工程大学付属学校に訪問しました。

日本では中国で披露するパフォーマンスとして、リコーダー・日本の遊び・中国語で歌う歌を何度も練習していきました。当日はとても緊張していて、パフォーマンスが成功するのかとても不安でした。けれど、少しわくわくもしていました。それは、中国の友達が驚いてくれるかもしれないと思ったからです。

今までの練習の成果を出してパフォーマンスをすると、中国の子達も笑顔になってくれました。その笑顔を見たとき、とても嬉しくなりました。



また、大垣の紹介も中国語でしました。中国語の発音はとても難しく、上手な中国語ではなかったかもしれないけれど、理解してくれたので練習した甲斐があったなと思いました。

その後に、中国の子達と一緒にけん玉・お手玉・折り紙をやりました。

中国の子達は、日本の伝統の歌である「さくら」を日本語で披露してくれたり、踊りも披露してくれました。僕たちに披露してくれる為に、中国の子達も沢山練習してくれたんだと思うと、とても嬉しくなりました。

その後、一緒にご飯を食べに行きました。少しですが、中国の友達と中国語で話をすることができました。中国語が通じてとても嬉しかったです。中国語がわからなかったときは、他の団員に助けってもらったり、ジェスチャーをつかったり、英語を喋ったりして、コミュニケーションをとる事ができました。食事中は、中国の子が僕のお皿に料理を取り分けてくれたり、僕達を取り分けてあげた時は「謝謝！」と言ってくれて、心が温くなりました。

中国の子たちと友好関係を築けたことがとても嬉しかったです。

日本にいてテレビなどから得る情報だと中国の人達は短気なイメージがあったけれど、その考えは全く変わりました。学校訪問で出会った中国の友達はとても温かく、そして優しい人達ばかりでした。

これから自分は、何事にもまず自分から取り組んでいき、情報をそのまま信じて思い込むのではなく、自分で実際に見て・会って・感じることを大切にしていきたいと思いました。

分かり合える優しさ

大垣市立西小学校6年 松村 智嘉

私は、第10回大垣市小中学生中国邯鄲市研修派遣団として、中国の人たちと交流を深めるために、中国の北京市に3日間、邯鄲市に3日間行きました。その6日間という短い期間の中で、私は、今まで知らなかったことを知ることが出来たり、中国の暮らしや歴史を五感で感じることができました。たとえば、故宮を目で見たり、料理を口で味わったり、鼻で嗅いだり、万里の長城を手で触ったり、中国の歌を耳で聞いたりしました。自分にとってはこれまでにない最高の体験になりました。

私が日本と中国で違うと思ったことは大きく2つあります。

1つ目は、建物です。日本では、一軒家が多いけど、中国の建物は、主にマンションやビルなどの集合住宅が多いです。玄関に赤色や黄色のかざりがありました。気になったので調べてみると、黄色は中国において徳の高い色です。これは昔皇帝しか使うことが許されていない色でした。そして赤色はお正月や結婚式など晴れの日飾る色です。中国人にとっては縁起のいい色です。そして逆にえんぎの悪い色が白色です。日本では結婚式などで使われる色ですが、中国では、お葬式の時に使われる色のためあまり縁起が良くありません。国が違うだけで、色の使い方と使う場所がちがうということを知り、驚きました。



2つ目は、食事です。実際に中国の料理を味わって気付いたことは、日本の料理は塩や醤油、みそ、だしなどを使った素材を引き立たせるような特徴があります。けれど、日本の料理に比べて、中国の料理は、油や香辛料、調味料などがふんだんに使われていて味付けは濃いめです。実際に食べてみるととても香ばしくておいしかったです。そして、いつも食べているものとはまた違う特徴をもっていてとてもおいしかったです。

最近では、日本の伝統の和食よりも、イタリアンなどが多く食べられるようになりました。けれど中国の中華料理は、何千年も前から食べられ今も食べ続けられています。私は世界中で交流するようになっても自分たちの食文化を変えずに今も進化し続けているということはとてもすごいことだと思いました。

中国の人たちと交流していて気付いたことは、みなさんとてもやさしく、温かく接してくれたことです。私は言葉が分からなかったり、国籍が違っても真心で交流をすることで、人間同士の優しさは分かり合えることだと思いました。またいろいろな国の人と交流する機会があれば進んで参加して、その人たちとも優しさを分かり合えるようにしたいです。

日本と中国をつなぐ

大垣市立江並中学校 1年 斉藤 夢岩

「斉藤さん、中国の派遣研修で、いろいろな所で通訳をして活躍したそうだね。国際交流協会からお話を聞きました。とてもほめていらっしやったよ。」

日本に帰って部活動をしている時、先生にほめられて、少し照れくさいような気がしました。でも、とてもうれしく、誇りに思いました。

僕が最初に通訳をしたのは、邯鄲に入った日の歓迎会でした。大きな丸テーブルにつき、邯鄲の方たちにいろいろなことを聞かれました。

「何が飲みたいの？」

「他に食べたいものはない？」

皆さんが中国語で尋ねるいろいろなことを、5人の仲間に日本語で伝え、コミュニケーションを活発にすることができました。

「Spriteはありますか？」

「小籠包はありますか？」

コーラを飲んだり、小籠包を味わったり、僕が通訳をすることで、5人の仲間がリラックスし、笑顔になっていったことがよく分かって嬉しかったです。これからの活動が、きつとうまいくと感じました。

3日目には、河北工程大学附属小学校の皆さんとの交流会がありました。僕は、日本の遊びを中国語で紹介する役です。紹介すると、意味がよく伝わったのか、にこにこしながら見てくれました。説明の後、

「皆さんも、一緒にやりませんか。」

と中国語で誘いました。「みんな、来てくれるかな。」と不安でしたが、その不安はすぐに消えました。僕の言葉に、「ステージに行きたい。行ってもいい？」と先生や家族に了解をとる子が多く、喜んでステージに来てくれたのです。ほっとしたし、とても嬉しかったです。僕の中国語と、仲間の身振り手振りで、コミュニケーションがうまくとれたと思います。中国の子たちと仲良くなれた、とてもよい時間になりました。

僕は、研修派遣の団員として、中国語が話せることを生かして、5人の仲間と中国の人達を言葉でつなぐことをずっと続けました。その結果、中国のよさと、日本のよさをしっかりと伝え合うことができたと思っています。

研修派遣の6日間は、僕にとって、大変だったけれど、楽しく、大きな自信となりました。今後も、機会があれば、日本と中国をつなぐ役割を果たしていきたいと考えています。



お世話になった方々を紹介します。

邯鄲市役所の劉弘瑛秘書長、外事弁公室の李志強主任、王志勇処長、通訳の胡海昆処長、李強処長、邯鄲博物館館長、ガイドさん、邯鄲市教育委員会の王維紅&先生方、通訳ボランティアの管佳慧さん、河北工程大学附属学校の張希龍校長&先生方々、ホストファミリーの劉家、楊家、張家、唐家、栗家、王家、太極拳体験の先生方々、河北成語文化公司の李相振総経理&郭文杰先生&方々、旅行会社のガイドの範明輝さんなどなど

本当にお世話になりました。ありがとうございました。









第10回大垣市小・中学生中国・邯鄲市研修派遣事業 報告書

編集／公益財団法人 大垣国際交流協会

〒503-0911

大垣市室本町5丁目51番地 スイトピアセンター学習館2階

TEL 0584-82-2311

FAX 0584-82-2314

URL <http://www.i-oiea.jp/>

Eメール oiea@mb.ginet.or.jp

作成／2019年11月

